

# 2010 年度中間決算説明会

## 主な Q&A

Q: 普通株等 Tier1 比率に関し、バーゼルⅢ新基準はクリアできても、欧米銀との比較で見劣りする場合、意識するか。

A: 現状の当社収益力は欧米銀の半分程度で、内部留保の積み上がりが遅いため、サーチャージは逆風だが、他行を単純に意識するつもりは無い。ただし、経営の自由度を確保するためには、最低所要水準に加えて 1~2%程度のバッファは必要。

Q: 貸出残高は来期にかけて反転増加するか。

A: 上期の残高減少には特殊要因も含まれているが、実勢でも 2 兆円ほど減少しており、見過ごせない。現場の業績評価を残高重視に切り替えたため、下期には減少傾向がストップするのではないかと期待している。

Q: RBS からのプロジェクト・ファイナンス資産(5,000 億円)購入について、中期的なリターンはどの程度を見込んでいるのか。

A: プロジェクト・ファイナンスの市場平均スプレッド(2%)を前提とすれば、5,000 億円のローンに対して年間 100 億円程度の収益貢献であるが、それだけを期待しているのではない。当社は既に米州プロジェクト・ファイナンス・ランキングではナンバーワンの地位にあり、今回 RBS の強力なプロジェクト・ファイナンス部隊も一部引き継ぐ計画であることから、彼らをコアに、欧州・中東・アフリカ地域においてもトップ・バンクを目指したい。

Q: 自己資本規制の詳細定義が固まるまでの間に、仮に大型投資案件が出てきた場合はどうするのか。

A: モルガン・スタンレーに対する投資のような 1 兆円に迫る案件は、さすがに今は手が出せない。しかし、100 億円規模でも内容の良い案件はあるので、そういう案件はしっかりやっていく。

以上